

国語 第1学年 すきなところを見つけよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「たぬきの糸車（第1学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。これまでに読んだ物語と、「場面」「登場人物」「すきなところ」をどこまで学習してきたか。平仮名と片仮名の読み書きがどのくらい身に付いているか。

三、この学級の子どもの実態。書くのが苦手な子、話すのが苦手な子、体験を言葉にしにくい子などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文言と文末は変えない。

教科書の本文や台詞は引用しない。場面と登場人物の呼び方だけを使い、台詞を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

めあてとまとめは、第1学年で習った漢字だけを使い、分かち書きにする。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「すきなところを見つけよう」 教材名「たぬきの糸車（岸なみ）」

2 単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する（(1)オ・ク）。場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ（C(1)エ・オ）。すきなところとそのわけを友達と伝え合い、楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（C(1)カ・学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（(1)オ）

〔知識・技能〕②語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（(1)ク）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。（C(1)オ）

〔思考・判断・表現〕③「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習課

題に沿って、すきなところとそのわけを友達に伝えようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、山奥に住むきこりの夫婦と、夜ごとにやって来るたぬきの物語である。糸車を回すおかみさんのまねをするたぬき、わなにかかったたぬきを逃がしてやるおかみさん、春に山へもどった夫婦が見付けた糸の束、糸をつむぐたぬきと、場面ごとに登場人物の行動がはっきりしていて、第1学年の子どもにも様子を思い浮かべやすい。たぬきの動きや糸車の音を表す言葉も多く、声に出して読む楽しさがある。学習指導要領第1学年及び第2学年のC(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」とC(1)オ「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと」を働かせるのに向いている。子どもはこれまでに、場面の様子や登場人物のしたことを確かめながら物語を読んできた。この単元では、それに加えて、すきなところを選んでわけを話したり書いたりする。第2学年で、登場人物の行動を具体的に想像して音読したり動作で表したりする学習につながる。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。一つ目に、すきなところのわけを「おもしろいから」「かわいいから」で終わらせず、たぬきやおかみさんが何をしたか、どんな様子だったかを添えて言えるようにする。そのため第2次では、場面ごとに登場人物のしたことを動作化や音読で確かめてから、様子を想像する。二つ目に、自分の体験と結び付けるために、「にたことをしたことがあるか」「見たことがあるか」を問い、話す時間とってから書かせる。三つ目に、同じところを選んでもわけが違ってよいことを伝え、友達のわけを聞く楽しさを味わわせる（C(1)カ）。本時のカードは、すきなところ、登場人物の行動や様子を挙げたわけ、自分の体験との結び付きの三つが書けている物を「おおむね満足できる」状況、体験と登場人物の行動を比べて、同じ所や違う所にまで触れている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全8時間）

第1次 第1時：○題名と挿絵から話を想像し、先生の範読を聞く。○すきなところを一つ言い、単元の課題「すきなところを見つけて、そのわけを友達に伝えよう」をつかむ。 評価：態①（観察・発言）

第2次 第2時：○場面1・2（たぬきがいたずらに来る、糸車を回すまねをする）を読み、たぬきとおかみさんのしたことを確かめる。○たぬきのまねを動作化し、様子を表す言葉を見付けて言葉カードに書く。 評価：知①（言葉カード・発言）

第2次 第3時：○場面3（わなにかかったたぬきを、おかみさんが逃がしてやる）を読み、おかみさんのしたことから様子を想像する。 評価：思①（ノート・発言）

第2次 第4時：○場面4（冬を村で過ごした夫婦が、春に山へもどる）を読み、おかみさんが見たものと、その時の様子を想像する。

第2次 第5時：○場面5（糸をつむぐたぬきを、おかみさんがのぞく）を読み、たぬきの行動と様子を想像する。○様子が伝わるように音読する。 評価：思①（ノート） 知②（音読の観察）

第3次 第6時（本時）：○お話の中からすきなところを一つ選び、そのわけを、登場人物の行動や様子と自分の体験とを結び付けてカードに書く。 評価：思②（カード）

第3次 第7時：○すきなところを音読し、わけを伝える練習をする。○ペアで聞き合い、わけをカードに書き足す。 評価：知②（音読の観察）

第3次 第8時：○すきなところとわけを紹介し合い、同じところを選んだ友達のわけと比べる。○学習を振り返る。動物が出てくるお話を読む並行読書を紹介する。 評価：思③（発言・観察） 態①（振り返り）

6 本時の指導（6／8）

(1) 本時の目標

お話の中からすきなところを選び、そのわけを、たぬきやおかみさんの行動や様子と自分の体験とを結び付けて書ける。（C(1)オ）

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前時までの場面ごとのカード（たぬきとおかみさんのしたこと）を見て、お話の順序を振り返る。

2 本時のめあてをつかむ。

○「このお話で、いちばんすきなところはどこですか」

【めあて】すきなところをえらんで、そのわけをかこう。

予想される児童の反応：・たぬきが糸車を回すまねをするところ。

・おかみさんがたぬきを逃がしてやる場所。

・たぬきが糸をつむいでいるところ。

・たぬきがおどりながら帰っていくところ。

指導上の留意点：・場面ごとのカードと挿絵を、お話の順に黒板に貼る。

・めあては、第1学年で習った漢字だけを使い、分かち書きで板書する。

【展開】

学習活動：3 全文を音読する。

4 いちばんすきなところに付箋を貼る。

5 選んだところで、たぬきやおかみさんが何をしたか、どんな様子だったかを確かめる。

○「そこで、たぬきやおかみさんは何をしていましたか。どんな様子でしたか」

6 自分の体験と結び付ける。

○「同じようなことをしたことや、見たことはありますか」

7 ペアで、すきなところとわけを話す。

8 カードに書く。

(型)「わたしがすきなところは、……ところです。わけは、……からです。わたしも、……ことがあります」

予想される児童の反応：・糸車を回すまねをするところ。たぬきが、おかみさんのまねを一生けんめいしているから。

・わたしも、お母さんのまねをして料理をしたことがある。

・たぬきを逃がしてやる場所。おかみさんがやさしいから。

・ぼくも、つかまえた虫を外に逃がしたことがある。

・糸をつむいでいるところ。たぬきが、おかみさんにお返しをしているみたいだから。

・ぼくも、手伝ってくれた友達にお返しをしたことがある。

指導上の留意点：・わけを言う前に、選んだところの行動と様子を、教科書の文に指を置いて確かめさせる。

・「おもしろいから」「かわいいから」で止まる子には、「たぬきは何をしていたかな」「どんな様子だったかな」と聞き、行動と様子を言わせてから書かせる。

・体験が思い出せない子には、家や学校や生活科の時間のことを先生が例に出して聞く。見たり聞いたりしたことや、ほかのお話で読んだことでもよいと伝える。

・書くのが苦手な子には、型の書き出しを書いたカードを渡し、話した言葉を先生が聞き取って一緒に書く。

・早く書けた子には、二つ目にすきなところを選ばせるか、選んだところを様子が伝わるように音読する練習をさせる。

・教科書の文を書き写す所は、先生が教科書から書き入れた見本を見せる。

【まとめ】

学習活動：9 二、三人がカードを読み、同じところを選んだ友達のわけと比べる。

○「同じところを選んだ人のわけは、自分のわけと同じですか。ちがいますか」

【まとめ】すきなところのわけは、たぬきやおかみさんのしたことと、じぶんのことをつなげてかくと、よくつたわる。

10 振り返りをする。

予想される児童の反応：・同じところでも、わけがちがっておもしろい。

・つぎは、音読してしょうかいしたい。

指導上の留意点：・同じところを選んだのにわけが違う例を取り上げ、違ってよいことを伝える。

・振り返りは「すきなところと、そのわけ」と「友達のわけを聞いて思ったこと」の二つを話させ、書ける子

には書かせる。

・次時は、すきなところを音読して紹介する練習をすることを伝える。

評価：思② 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(カード)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

右端に日付と題名、めあて(分かち書き)。その左に、場面1～5のカードと挿絵を、お話の順に右から左へ並べて貼る。挿絵の下に、子どもが選んだところの名札を貼る。中ほどに中心の問い「そこで、たぬきや おかみさんは なにをしたかな。どんな ようすかな」と、子どもが言った行動と様子の言葉。その左にカードの型(わたしがすきなところは……。わけは……。わたしも……。)。左端にまとめと、振り返りの二つの観点。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

